



横浜市議員

まさ やす

げんなみ正保通信

2010年6月10日

号外
〈地域活動〉

10年来の悲願、達成へ向けて！

緑園中学校設置推進協議会が山田副市長に (仮称)市立緑園中学校設置の陳情書を提出



山田副市長に要望書を提出する緑園中学校設置推進協議会の皆様と市議ら

緑園中学校設置推進協議会(代表石田和雄・緑園連合自治会会長)は(仮称)「横浜市立緑園中学校設置」を求める陳情書(林文子市長・今田忠彦教育委員長、山田巧教育長宛)を平成22年6月8日、市庁舎において山田正人副市長に1万5千126名分の署名簿を添えて提出しました。

これには、げんなみ正保市議の呼びかけによ

り、関係する4人の市議が立ち会いました。

石田和雄代表は、陳情理由の骨子として表①をあげ、更に、平成17年に実施された教育委員会のアンケート調査、平成20年に実施された緑園西・東小保護者を対象とするアンケート調査の結果をはじめ、様々なデータを用い、理由の詳細を述べています。

席上、同代表は「市が財政難だとは解っているが、教育熱心な土地柄もあり何とか対応してほしい」と話しました。

山田副市長は、「重たい思いをいただいた。しっかりと検討したい」と答えました。



げんなみ正保は地域住民の緑園中学校設置の熱意を受け、いち早く議会に対応。平成20年度決算特別委員会において、この問題を初めて議会に取り上げ、田村教育長(当時)に質問。

緑園地域の声を

げんなみ正保市議が
平成20年度
決算特別委員会で
取り上げました。

げんなみ正保は緑園地域の中学校建設について地域での機運が高まっており緑園中学校の建設が必要であることを訴えました。田村教育長は「緑園中学校建設に対する要望が高いことは承知しております。今後も緑園地域の声によく耳を傾け、対応について考えていきたい。」と答えました。

げんなみ正保は今後も、たゆむことなく、「地域の声」に耳を傾け、泉区の街づくりに力を注いで参る決意です。

表① 陳情の理由(骨子)

(仮称)横浜市立緑園中学校の設置に関する本陳情を行う理由の骨子として次の3点を掲げさせていただきます。

1. 公立中学校である(仮称)横浜市立緑園中学校の設置は、緑園地域および周辺地域住民の世代を超えた方々の悲願であること。
2. (仮称)横浜市立緑園中学校が設置されることにより、緑園地域および周辺地域には次のことが期待されること。
 - ①小学校中学校にて地元で学び、地域や郷土を愛する意識を育む事により、豊かな地域社会の形成と将来の発展につながるものと確信していること。
 - ②現在緑園地区の小学校卒業生の指定校である、岡津中学校または名瀬中学校、いずみ野中学校など遠方に通学する中学生の不安を解消し、かつ、岡津中ならびに万騎が原中などの過密状態解消にも資すると思われること。
 - ③地元で公立中学校が設置されることにより、大災害時の医療救援拠点の確保、個別支援学級の新設、および地域コミュニティの拠点としての機能も確保できると思われること。
3. (仮称)横浜市立緑園中学校が設置された場合は、地域の教育拠点、コミュニティ拠点として緑園地域、周辺地域をあげて将来に亘り支援を惜しまない意向であること。



予算要望書

公明党横浜市議員団は毎年、市長に提出している予算要望書に平成17年度以降平成22年度まで一貫して緑園地域に市立中学校の設置を盛り込んできました。